

おやま 町議会だより



2026年8月1日号

NO.

187



7月19日 富士スピードウェイスーパーフォーミュラ2026
第7戦 決勝スタート前の様子

6月定例会 令和8年度補正予算ほか20議案を可決

- ・ 各常任委員会 3
- ・ 4月臨時会 訴えの提起ほか承認・可決 3
- ・ 政務活動費の報告 4
- ・ 一般質問に9人が登壇 5
- ・ 「議員が行く！」 14

UD
FONT

発行：静岡県駿東郡小山町議会

6月定例会



令和8年第4回6月定例会が6月4日から6月19日までの16日間の会期で開かれました。

定例会では、令和7年度各会計予算繰越計算書等の報告7件、委員の任命の同意1件、工事請負契約の締結3件、財産の取得3件、条例の改正3件、一般会計補正予算2件（第1号・第2号）、町道路線の認定1件の20議案が提出され、審議の結果、いずれも全員賛成で、原案のとおり可決されました。

令和8年度小山町一般会計補正予算（第1号）

寄附金及び企業版ふるさと納税地方創生基金繰入金を充てて、きたこうこども園のプールを買い替える補正予算。

既定の予算に、305万7000円を追加し、総額を153億305万7000円とするもので、審議の結果、

全員賛成で可決。

令和8年度小山町一般会計補正予算（第2号）

国の令和8年度補正予算成立による物価高騰対応重点支援交付金の追加交付に伴い、町内商工業

者及び生活者支援のため、小山町商工会が実施する「おやまっちスタンプまつり」に対する地域活性化対策助成金を増額する補正予算。

既定の予算に、593万9000円を追加し、総額を153億899万6000円とするもので、審議の結果、

全員賛成で可決。

工事請負契約（変更）の締結

■令和7年度 地域連携道路事業 町道3984号線道路改良舗装工事

町道3984号線道路改良舗装工事について、工事に伴い実施した土質

調査により路床の状態が悪いことが判明し、新たに路床改良工を実施する必要が生じたことから、変更契約を締結しようとするもので、契約金額は1265万円増額の6721万円、審議の結果、

全員賛成で可決。

工事請負契約の締結

■令和7・8年度 食の創造拠点施設整備事業

町内の農林水産物の高付加価値化と流通促進による町内産業の活性化、来場者の交流などを目的とし、必要な調査・測量・設計・施工及び法手続について、設計・施工一括発注方式により整備する

もので、契約金額は2億8336万円、審議の結果、

全員賛成で可決。

■令和8年度 小山町町民いこいの家「あしがら温泉」合併浄化槽設置工事

近年の利用者増加や老朽化への対応として、安定的かつ適正な污水处理能力を確保するため、新たに合併浄化槽を設置するもので、契約金額は5885万円、審議の結果、

全員賛成で可決。

小山町給水条例の一部を改正する条例

災害等非常時に他の水道事業管理者が指定した指定給水装置工事事業者による給水装置の工事を可能とし、復旧工事等の円滑な実施ができるよう改正を行うもので、審議の結果、

全員賛成で可決。

小山町消防団員等公務災害補償条例条例の一部を改正する条例

国の人事院規則の改正

に伴い、非常動消防団員等が公務等により死亡した場合における葬祭補償の額を改正するもので、審議の結果、

全員賛成で可決。

小山町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する規準を定める条例及び小山町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する規準を定める条例の一部を改正する条例

児童福祉法等の改正に伴い、小規模保育事業に関する基準の整備等をする改正を行うもので、審議の結果、

全員賛成で可決。

小山町農業委員会委員の任命

小山町農業委員会委員の任期が令和8年7月19日をもって満了となるため、新たな委員として、小山町農業委員会委員候補者等選考委員会により選考された11名の任命、

全員賛成で同意。

財産の取得

■令和8年度 消防団第3分団消防ポンプ自動車購入事業

更新計画に基づき消防ポンプ自動車を指名競争入札により購入するもので、契約金額は3144万6800円、審議の結果、

全員賛成で可決。

■令和7年度 循環式シャワーキット購入事業

シャワー設備本体及びフィルターセット等付属品を指名競争入札により購入するもので、契約金額は962万5000円、審議の結果、

全員賛成で可決。

■小山町総合体育館移動式バスケットゴール購入事業

小山町総合体育館の移動式バスケットゴールが故障し修理不能になったことから、指名競争入札により購入するもので、契約金額は1012万円、審議の結果、

全員賛成で可決。

常任委員会報告

総務建設委員会

委員長 小林 千江子

総務建設委員会に付託された、1議案について、6月9日に審査を行い、原案のとおり可決すべきものとしました。主な内容は次のとおり。

町道路線の認定

町道の認定基準について、今回の場合は幅員がいくつか。また、排水溝を両サイドに付けないといけないといった基準は。

今回認定する町道は幅員5メートルです。排水施設など認定に際しての特別な基準はありません。

宅地分譲した場合に町道を通すときも、町道の認定基準は特に定めていないという理解でよろしいか。

町道の認定については、特に基準はありません。認定というのは、起点と終点を定めるだけで、道路の構造や幅員の概念は、認定の時点ではありません。



足柄ふれあい農園

【勉強会関連リンク】
(小山町公式ホームページ)
小山町オーガニックビレッジ宣言について
(農業振興課)

取るときには、開発等に絡む基準では住宅地であれば幅員6・5メートルなど、技術基準を内規で定めています。認定の際には、基準はありません。

委員会終了後に、オーガニックビレッジに関する勉強会を開催し、その後併せて、町道路線認定箇所及び富士山麓みどり食農チャレンジ2026エリアについて、現地確認と視察を実施しました。

文教厚生委員会

委員長 渡辺 悦郎

本議会では、文教厚生委員会への付託案件はありませんでした。

委員会として、6月12日に、新たな小山町洪水ハザードマップ及び令和8年5月から運用開始される新たな防災気象情報に関する勉強会を開催し、その後すがぬまこども園の視察を実施しました。



すがぬまこども園のプール設備

【勉強会関連リンク】
(小山町公式ホームページ)
小山町鮎沢川及び鮎沢川水系洪水ハザードマップ
(危機管理局)

4月臨時会

令和8年第3回4月臨時会が4月27日に開催され、専決処分承認3件、訴えの提起1件の4議案が提出され、審議の結果、いずれも全員賛成で、原案のとおり可決しました。

(議会だより第186号「令和8年5月1日発行」の校了後の開催であったため、今回号に掲載いたします。)

訴えの提起

道の駅「すばしり」観光交流センターの前指定管理者に対し、施設等からの退去等を求める訴え等を提起するため、議会の議決を求めるもの。

道の駅「すばしり」観光交流センターについて、前指定管理者の観光開発株式会社、指定管理期間の終了後も同施設を占有し続けていることから、同社に対し、建物及び施設の明渡し、未払い施設使用料の支払い、明渡し完了までの損害金の支払い等を求める訴訟を提起するとともに、建物退去・土地明渡し仮処分命令の申立てを併せて行う内容。審議の結果、

全員賛成で可決。相手は弁護士が入つ

ているのか。相手方の占有の理由は何か把握しているか。

相手方は代理人として弁護士が出てきています。占有理由については、施設改修に要した投資額が回収できていないという理由で、それに見合う補償を町に求められましたが、町は支払う理由がないので断りました。相手方は令和8年4月1日から原状復帰工事ということを主張していますが、町は認めておりません。

同様の事案を繰り返さないために今後どうしていくのか。

基本協定に沿って迅速な対応を行っていく予定です。

訴訟に至った要因だが、相手方が設備投資をしたことについて、50万円以上の場合には町が実

施することになっているため、町から相手方に確認したところ、今回は相手方が自己負担で実施する旨の回答があり、それでお互いに同意して工事を実施した。ところが契約期限になつてそのことを根拠に立退きを拒んでいる。そのような理解でよいのか。

そのとおりです。

専決処分の承認

小山町税条例の一部を改正する条例

小山町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

令和7年度小山町一般会計補正予算(第10号)以上、条例の一部改正2件、補正予算1件の合計3件の専決処分について、審議の結果、

全員賛成で承認。

令和7年度 政務活動費の報告

政務活動費は、地方自治法の規定により、議員の調査研究その他の活動に資するため必要な経費の一部として、会派又は議員に対し町から交付されます。

政務活動費は、1人当たり月額12,500円となっており、収入から支出を控除して残余がある場合は、残余を町へ返還することとなります。

町内に住所を有する者等は、政務活動費等を閲覧することができます。

小山町議会議員政務活動費 収支一覧

議員・会派	期 間	収 入※	支出／支出項目	残 余
会派：新生会 米山 千晴 小林千江子 鈴木 豊 遠藤 豪	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日	600,390円	567,035円 調査研究費：543,795円 資料購入費：23,240円	33,355円
会派：町民本位の会 岩田 治和 臼井 光昭 牧野 恵一 蘭田 豊造	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日	600,559円	504,043円 調査研究費：324,029円 資料作成費：150,478円 事務費：29,536円	96,516円
会派：治政会 室伏 辰彦 池谷 元	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日	300,323円	107,864円 調査研究費：34,951円 研修費：72,913円	192,459円
無会派議員： 平野 正紀	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日	150,139円	136,986円 研修費：114,296円 資料作成費：990円 資料購入費：21,700円	13,153円
無会派議員： 石原 和美	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日	150,145円	110,817円 調査研究費：78,257円 研修費：32,560円	39,328円
無会派議員： 渡辺 悦郎	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日	150,231円	0円	150,231円
		1,951,787円	1,426,745円	525,042円

※ 収入には利子が含まれています。

- 調査研究費

会派等が行う町の事務、地方行政等に関する調査研究及び調査委託に要する経費
- 研修費

会派等が行う研修会、講演会等の実施に要する経費、団体等が開催する研修会、講演会等への議員の参加に要する経費
- 会議費

会派等が行う各種会議、住民相談会等に要する経費、団体等が開催する意見交換会等各種会議への議員の参加に要する経費
- 資料作成費

会派等が行う活動に必要な資料を作成するために要する経費
- 資料購入費

会派等が行う活動のために必要な図書、資料等の購入、利用等に要する経費
- 事務費

会派等が行う活動に係る事務の遂行に要する経費



石原 和美

(無会派)

YouTubeにてこの
一般質問の様子が
ご覧いただけます

リンク先：YouTube

小山町議会公式チャンネル

「令和8年 第4回 6月定例会：石原和美 議員」



富士を望む新たな観光拠点へ！

リニューアル工事が進む「誓いの丘」

Q「誓いの丘」整備効果、最大化への取り組み

A 情報発信と周遊促進で整備効果を高めていきます

眺望、歴史的な背景など、他の自治体にはない唯一無二の魅力を備えている「誓いの丘」は、新たに整備され、令和8年7月にリニューアルオープンの予定である。これを機に、町の観光・交流人口の拡大につながるような取り組みを進めるべきでは。

Q リニューアルした誓いの丘の魅力を広く発信するための広報、PR戦略は。

情報発信していきます。

A 都市基盤部長

広報おやま、公式ホームページ、公式LINE、インスタグラムなど広く

Q 写真・SNS映えを意識した取り組みは。

A 経済産業部長

ダイヤモンド富士の見頃となる時期や時間帯、夜景や星空などの魅力を

公式ホームページやSNSなどで配信し、認知度向上と誘客促進に取り組んでいきます。

※AR観光マップ(※導入については。)
A 商工観光課長
導入事例や費用対効果を調査・研究するとともに、本町の観光資源への活用の可能性について検討していきます。

Q 町内での滞在時間延伸に向けて、他の観光施設と連携した取り組みは。

観光情報の一体的な発信や周遊を促す仕組みづくりを進め、来訪者の滞在時間の延伸と町内周遊促進に取り組んでいきます。

(※)【注釈説明】
AR観光マップ…拡張現実技術(Augmented Reality)を活用した観光マップのこと。

Q ネット社会における判断能力を育てる主権者教育を

A 社会の担い手へ成長するための教育活動を推進します

SNSなどの情報が政治や選挙に大きな影響を与える中、子どもたちが情報を正しく見極め、自ら判断できる力を育むこと(リテラシー教育)が求められている。それらの充実とともに、子ども議会等の体験機会の拡充が必要なのでは。

Q 町の主権者教育の現状について伺う。

A 教育次長

小中学校では、社会科や特別活動、総合的な学習の時間など、教育活動全体を通して主権者教育

に取り組んでいます。

Q 小中学校段階からの情報リテラシー教育及び主権者教育の必要性について伺う。

A 教育次長

関係各所と協力し、政治を身近に感じ、興味・関心を持てるような学習

小中学校段階から情報リテラシーを育成することとは、主権者教育の観点からも重要であると考えています。

Q 政治を体験的に学ぶ機会を拡充する考えは。

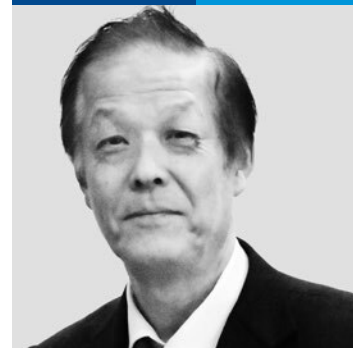
A 教育次長

関係各所と協力し、政治を身近に感じ、興味・関心を持てるような学習

活動を発達段階に合わせて推進します。
Q リテラシー教育、主権者教育を並行して着実に進めることが重要と考えますが、教育長の考えは。

A 教育長

主権者教育等を着実に実施し、未来の社会の担い手へと成長することを期待して、教育活動を推進します。



室伏 辰彦

(治政会)

YouTubeにてこの
一般質問の様子が
ご覧いただけます



リンク先: YouTube
小山町議会公式チャンネル
「令和8年 第4回 6月定例会: 室伏辰彦 議員」



有機での小麦栽培からパン作りまでを目指す取組み
今年の収穫量は300キログラム／3反

Q 儲かる農業の育成について

A 農業が魅力ある稼げる産業となる施策に取り組みます

町長の政策提言マニフェスト2年目の通信簿で、農業の生産性や付加価値の向上、販路開拓など、意欲ある経営体の取組みを支援し「儲かる農業」の育成、推進に努めるとのことだったが、自己評価は5点中1点であった。

◎「儲かる農業」を推進するに当たり、具体的に現在の施策の状況とその進捗について伺う。

A 経済産業部長

次の3つの施策に取り組んでいます。

①町内6地区、受益面積約87ヘクタールで、農業生産性の向上と維持管理の労力低減を目的に、農地基盤整備を実施しています。

②「農家のおじさんに水稻の栽培技術を聞いてみよう会」や認定農業者への農業機械の取得補助など、将来の農業を支える担い手の育成と経営支援を行っています。

③豊かな自然環境を次の世代へ引き継ぐことを目的に、オーガニックビレッジ宣言を行い、環境保全

型、地域資源循環型農業を推進しています。

◎静岡県食と農の基本計画7年度から10年度での小山町の取組みについて伺う。

A 経済産業部長

先の質問で回答した3つの取組みのほか、地域の共同活動に活用できる、中山間直接支払交付金と多面的機能支払交付金の更なる活用を進め、地域で支えあう持続可能な農村づくりを進めます。

◎町の認定農業者のうち、75歳以上の方は何人いるのか。請け負っている田が多い方はどのくらいの面積があるのか。農業機械取得補助の助成金額はどのくらいなのか。

A 農業振興課長

町全体では27経営体で、うち法人が6社です。75歳以上は6経営体で、そのうち田の集積面積の一番多い経営体は、約3ヘクタールです。令和7年度の農業機械導入事業の助成金実績は、5件で交付額545万8000円です。

A 農業振興課長

現在、新たな担い手対策として、有機での小麦の栽培からパン作りまでを目指す取組みを行っています。この取組みは、自分で食料を作りたい、学びたいという、年代、職種様々な方が自主的に参加している取組みです。

◎小山町の特産物である水かけ菜の生産者は、高齢化と加工施設を造らなければならなくなったことで年々減少している。水かけ菜は需要があり、農家の利益につながっている。他の地域ではやる気のある若者が農業法人を立ち上げ、地域ぐるみで経営されている方もいる。やる気のある方を募り、数年後を見据えバックアップをしていく試みも必要だと思うが町の考えを伺う。

水かけ菜についても、共同で栽培し、加工する体験や、水稻に続き、栽培講習会を開催するなど、多くの人が楽しみながら参加できるような取組みを検討し、水かけ菜の振興を進めます。



岩田 治和

(町民本位の会)

YouTubeにてこの一般質問の様子がご覧いただけます

リンク先：YouTube
小山町議会公式チャンネル
「令和8年 第4回 6月定例会：岩田治和 議員」



上着や作業着は、
家の中に持ち込まない
ようにしましょう。



屋外活動後は、シャワーや
入浴で、ダニ※が付いてい
ないかチェックしましょう。

※「できもの」のように見えることがあります



ガムテープを
使って服に付
いたダニを取
り除く方法も
効果的です。

ダニ類の多くは、長時
間（10日間以上のことも
ある）吸血します。吸血中
のマダニを無理に取り除こ
うとすると、マダニの口器
が皮膚の中に残り化膿す
ることがあるので、皮膚科等
の医療機関で、適切な処置
（マダニの除去や消毒な
ど）を受けてください。

マダニに刺されたら、
数週間程度は体調の変化
に注意し、発熱等の症状が
認められた場合は、医療機
関で診察を受けてくださ
い。

イノシシを口で
刺すマダニ



(国立健康危機管理研究機構提供)

マダニから身を守る方法

Q マダニ、ヤマビルなどの接触被害の防止について A 広報紙やSNSによる注意喚起を推進します

マダニ、ヤマビルは森林、草地、公園など野生生
物のいる屋外環境を中心に広く生息している。

シカやイノシシなどを媒介し民家の裏山や畑、公
園や河川敷の周辺に生息し、多くは地面から1・5
メートル程度の高さに生息していることが知られて
いる。

活動は、3月から11月の気温の高くなる時期に活
発化し屋外活動には注意が必要であり、マダニにつ
いては重篤な感染症をもたらすことから、適切な対
策を講じてマダニに咬まれないことが大切である。

本町においては、これまでは生息地は神奈川県寄
りの丹沢方面に集中しているようであり、生土地区
や中島地区の山側で被害が多いと聞いていた。近年、
私の住む南藤曲地区でも市街地に近い民家隣の畑に
おいても、マダニやヤマビルに咬まれる被害者の
話を聞く状況にある。

その要因としては、シカなどの野生生物が媒介
し、里山に下り茶畑や野菜畑に入り、そこに生息
していることが多いと考える。

また、近隣の神奈川県各市町では、ハイキングに
訪れる方にマダニ、ヤマビルの接触被害に対し、パ
ンフレット等を作成し活発に啓発活動を行っている。

◎ 現状のマダニ、ヤマビル対策などの接触被害をどのよう に認識され、健康被害の状況はどうな か。

A 住民福祉部長

マダニに咬まれると、
重症熱性血小板減少症候
群（SFTS）、及び日本
紅斑熱などの感染症を媒

介する可能性があること
から、健康被害への注意
が必要であると認識して
います。

ヤマビルについては、
直接重大な感染症を媒介
するものではないとされ
ていますが、吸血による
出血や心理的不安を伴う
ことから、住民生活への
影響があるものと考えて
います。

また、健康被害の状況
については、現在のところ
本町において重篤な被
害報告はありませんが、
実際にヤマビルに咬まれ
た方や、その目撃情報も
寄せられていることから、
引き続き、その動向を注
視していきます。

◎ 健康被害を防止する ための啓発活動の状況は どうであるのか。

A 健康増進課長

町では、県や保健所な
どの関係機関から提供さ

れる情報を活用し、広報
紙やSNS等を通じて注
意喚起を行っています。

具体的には、

- ① 感染症に罹患すること
の危険性
 - ② 屋外活動時は肌の露出
を避ける服装をすること
 - ③ 害虫に有効な虫除け剤
を使用すること
- などの対策について周知
を図っています。

今後もハイカーや屋外
活動を行う方々に対し、
関係機関と連携しなが
ら、健康被害の未然防止
に努めていきます。



小林 千江子

(新生会)

YouTubeにてこの
一般質問の様子が
ご覧いただけます



リンク先: YouTube
小山町議会公式チャンネル
「令和8年 第4回 6月定例会: 小林千江子 議員」



統廃合されず存続することとなった小山高校
町も共に「魅力ある選ばれる高校」を目指して

Q 小山高校の魅力化と地域連携は

A 小山高校の魅力向上に積極的に関わっていきます

高校再編や授業料無償化の影響により、小山高校を取り巻く環境は厳しさを増している。令和6年度入学生122人に対し令和8年度は64人まで減少しており、存続の危機感もある。小山高校の魅力化と地域連携について町の方針を伺う。

A 企画総務部長

小山高校を将来にわたって存続させるため、町としてどのような危機感を持ち、どのように主体的、具体的に魅力化や地域連携に取り組んでいく考えか。

町は小山高校の存続に強い危機感を持ち、令和元年度から県知事に要望してきました。昨年10月に、町と高校と県が連携して協議する場としての「魅力化に向けた検討部会」が設置され、富士山

やモータースポーツなど地域資源を活用した探究学習やグローバル人材育成など、特色ある学校づくりを提案しています。小山高校は、「小山町の宝」であると認識しています。

Q 新たな学科への転換も県へ要望しているようだが。

A 教育次長

小山高校の将来的な方向性として、探究に重点を置いた新たな学科への

転換を県へ要望しています。

Q 栄養支援・子育て支援のみならず、選ばれる高校づくりの観点からも、自校式給食の配送型高校給食が大変有効であると考えますが。

A 教育次長

先進事例や実施手法などを研究するとともに、県とも情報共有や意見交換を行いながら、可能性について研究します。

Q 職員の働き方改革と持続可能な行政運営は

A DX推進と働き方改革で行政サービス向上を図ります

人口減少や人材不足が進む中、限られた人員で行政サービスを維持していくためには、働き方改革とDX推進が不可欠である。窓口改革やオンライン化、多様な勤務形態、生成AI活用、人材育成について町の考えを伺う。

ス向上につながります。導入には他市町の事例を参考に検討を進めます。

職員の確保や定着に向け、選択的週休3日制などの柔軟な勤務形態をどのように研究・検討して

Q 検討されている窓口時間短縮の導入目的と今後の進め方は。

職員の確保や定着に向け、選択的週休3日制などの柔軟な勤務形態をどのように研究・検討して

Q 生成AIの活用に伴う情報漏えい対策や利用ルールの整備の進め方は。

A 企画総務部長

ガイドラインを作成し、生成AIの安全な導入を

Q DX推進の基盤となる業務の棚卸しや業務改革の必要性は。

A 企画総務部長

オンライン申請は、「LOGOフォーム」と「びったりサービス」で手続きを進めていますが、利用状況に差があるため、周知強化と利便性向上に努めます。

進めていきます。



臼井 光昭

(町民本位の会)

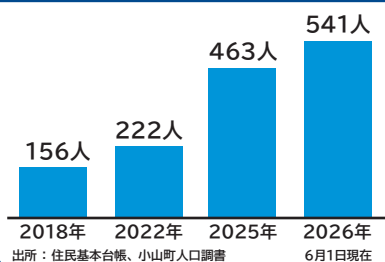
YouTubeにてこの一般質問の様子がご覧いただけます

リンク先：YouTube
小山町議会公式チャンネル
「令和8年 第4回 6月定例会：臼井光昭 議員」



外国人材に「選ばれる」小山町へ ～ 2027 年制度変更と地域の持続可能性 ～

外国人住民は8年で約3.5倍に増加



町に求められること

実態把握とニーズ調査



選ばれる町づくり

～ 若者にも外国人にも選ばれる地域へ ～

- ・働きやすい環境
- ・安心して暮らせる環境
- ・地域で共に暮らす環境



「選ばれる 町に人あり 未来あり」

Q 外国人材と地域の持続可能性について

A 外国人と地域が安心して暮らせる環境整備を進めます

町内の外国人住民について調査を行った結果、外国人住民は2018年の156人から2025年には463人へ増加し、北郷地区を中心に町全域へ広がっていることが分かった。

増加の中心は20歳から34歳の若い就労世代であり、地域経済や医療・福祉分野を支える重要な存在となっている。

一方、2027年には技能実習制度に代わる「育成就労制度」が始まり、外国人材が勤務地を選びやすくなることで、地方から都市部への人材流出が懸念されている。

北海道帯広市では、医療・福祉施設において、育成した外国人介護職員17人全員が「もっと給料が高い場所働きたい」などと考え、都市部へ転出した事例も報じられている。

以上を踏まえ次の点について伺う。

◎外国人材が地域経済や医療・福祉を支える状況をどう認識しているか。

A 企画総務部長

本町の外国人住民は近年大きく増加し、現在535人が住民登録されており、町内人口の3・2%を占めています。人口減少・少子高齢化が進む中、外国人労働者は地域産業と医療・介護・福祉

◎育成就労制度による人材流出リスクをどう捉えているか。

A 企画総務部長

2027年の育成就労制度開始により、外国人材の転籍が容易になり、待遇の良い企業や都市部への流出が懸念されま

す。地方に人材が定着しなければ、企業活動だけでなく町民生活を支えるサービス維持にも影響を及ぼす可能性があります。

◎外国人住民の増加に伴う地域課題をどう認識しているか。

A 企画総務部長

外国人住民の増加に伴う課題への対応として、第5次総合計画後期基本計画に「国際理解・多文化共生の推進」を掲げ、3つの主要事業を展開しています。国際交流員の配置、日本語講座と交流機会の創出、異文化体験団体への活動支援です。

今年度は「対話型日本語教室」を開始し、外国人住民が地域で孤立せず安心して暮らせる環境づくりを進めます。

◎若い世代や外国人から選ばれる町づくりをどう進めるのか。

A 企画総務部長

今後、若者や外国人材が地域を選ぶ時代が到来します。企業、地域団体、県など関係機関と連携し、外国人材を単なる労働力ではなく地域を支える大切な一員として捉え、安心して働き、暮らし、地域と関わることをできる環境を整備することが、地域社会・経済の維持につながるものと考えます。



平野 正紀

(無会派)

YouTubelにてこの
一般質問の様子が
ご覧いただけます

リンク先: YouTube
小山町議会公式チャンネル
「令和8年 第4回 6月定例会: 平野正紀 議員」



環境保全型・地域資源循環型農業に向けた取り組み
「農ある暮らし塾」用沢コミュニティ農園での肥料撒きの様子

Q 小山町バイオマス産業都市構想と町民生活への効果

A 環境にやさしく災害に強いまちづくりを目指します

森林資源や農業資源など、地域資源を活用した循環型社会づくりの目的や具体的な効果、今後の進め方について伺う。

Q この構想を通じて、森林整備や林業振興をどのように進めていくのか。

A 経済産業部長

需要が見込まれる木質バイオマスの安定供給に向け素材生産の拡大を図るとともに、収益性の高い森林へ転換を進めます。

Q 農業残渣の堆肥化や循環利用など、循環型農業をどのように進めていくのか。

A 経済産業部長

もみ殻などの未利用資源を活用し、化学肥料や農薬を低減した循環型農業を進めます。

Q 家庭や事業者から出る食品残渣の活用への課題認識と今後の活用可能性は。

A 企画総務部長

構想では、食品廃棄物を集積しメタン発酵発電を目指しています。具現化において食品製造事業者等との協議や、安定的な原料調達など多くの課題がありますが、詳細な調査・検討を行い、事業の推進を図っていきます。

Q 構想を進めるうえで、今後町民の周知や理解促進をどのように進めていく考えか。

A 経済産業部長

構想に位置付けた各プロジェクトの事業内容や進捗状況などを確認し、広報について留意します。

Q 自転車の車道通行厳格化と道路安全対策について

A 関係機関と連携し安全対策の推進に努めます

自転車が安心して通行できる道路環境整備や、分かりやすい周知・啓発を行うことが今まで以上に求められている。

などで多くの方への周知啓発に努めます。

Q 自転車の車道左側通行や、ながら運転への罰則強化など、改正道路交通法の町民周知の進め方と現在の課題は。

A 企画総務部長

車と同じルールが適用されることについて認識が低いところが課題です。交通安全教室や街頭活動

Q 自転車にとって危険と思われる道路や通学路についての把握状況は。住民や学校などからの要望や相談はあるか。

A 企画総務部長

日常的に道路パトロー

ルを実施し、道路状況の把握に努めています。自転車利用に当たっての要望等は伺っていません。

Q 交通安全対策について、警察や学校、企業とどう連携して取り組んでいるか。

A 企画総務部長

児童・生徒を対象とした交通安全教室や、外国人の方々に対する自転車教室を連携して実施して

Q 今後どのような道路安全対策を進めていくのか。自転車利用者の視点をどう反映していくのか。

A 企画総務部長

道路の異変をいち早く解消し事故を未然に防ぐとともに、自転車利用者の利用状況なども十分考慮して設計に活かします。



牧野 恵一

(町民本位の会)

YouTubeにてこの一般質問の様子がご覧いただけます

リンク先: YouTube
小山町議会公式チャンネル
「令和8年 第4回 6月定例会: 牧野恵一 議員」



昭和40年代に建てられた吉久保北団地(右写真)
学習塾として占有的に使われるヘルスアップルーム(左写真)

Q 町営住宅の施設整備について

A 長寿命化計画に基づき改修を進めています

公営住宅は、住宅に困窮している世帯でも、安い家賃で健康で文化的な生活が送れるよう行政が社会福祉の増進のために提供する住宅である。2023年に策定した町営住宅等長寿命化計画では、昭和40年代に建てた住宅も引き続き数多く使用していく予定になっている。

◎古い施設・設備の改良、安全性の確保について考えを伺う。

◎都市基盤部長

継続して使用する町営

住宅は、長寿命化計画に基づき健全性維持を目的とした外壁塗装や屋上防水などの改修のほか居住改善のための設備交換

◎風呂がないので冬は大変、という声がある。風呂に入りたかったら20〜30万円を自己負担で、という町の今の制度は時代錯誤ではないか。「温水プールより風呂を！」の

などを行い維持管理していく計画です。また、改修する住宅は所定の耐震性は確保されています。

要望を受け止めてほしい。

◎都市基盤部長

近年は自治体が設置するケースも出てきている一方で、設置に伴う多額の財政負担や自己負担した入居者との公平性、改善による家賃上昇など様々な課題があるため、他市町の事例などを調査して対応を検討していきます。

Q 行政財産の目的外使用について

A 町営塾の実施を条例に基づいた手続きで進めます

法令を軽視することは、財政運営のゆがみを生む。小山町健康福祉会館は、町の条例で「町民の健康増進、福祉の向上、コミュニティの発展及び地域防災の拠点とする」と決められている。ここに開設する町営学習塾は、小4から中3までの学校教科の学習目的であるから、会館の建設目的とは異なる。地方自治法では、行政財産を決められた目的以外に使用することを戒めている。

◎学習塾として使用するヘルスアップルームは、健康増進のための部屋ではないのか。

通年でこの部屋を使用するのは「利用」の域を

超え、実質的な占有であり、条例が掲げる「町民の健康増進」のための利用機会を大きく侵害することになる。

行政財産の利用許可

◎企画総務部長

町営学習塾成美教室は、健康福祉会館の1部を週3日(月・水・金)、午後1時〜午後9時30分の限定時間帯で利用します。

町営塾の実施に当たり、町は「健康福祉会館の設置及び管理に関する

条例」第5条に基づき利用許可申請を行い、同条例第6条及び施行規則に基づき、適切に利用許可を受けています。施設の一部を限定的に利用する形態であり、条例に基づいた手続きを経ており、問題はないものと考えています。



池谷 元

(治政会)

YouTubelにてこの
一般質問の様子が
ご覧いただけます

リンク先: YouTube
小山町議会公式チャンネル
「令和8年 第4回 6月定例会: 池谷 元 議員」



ガードレール設置の要望が出ている通学路

Q 通学路における子どもの安全・安心の確保 A 学校や地域と連携して道路の安全対策を進めます

小中学生の通学路の安全・安心について伺う。本町の通学路における危険箇所の把握体制について通学路の安全確保は町として極めて重要な行政課題である。

先月、成美小学校のPTA会長とともに通学路の安全対策について担当課に要望をお伝えした。小山1区からも同様の要望が寄せられており、共通した危険性が指摘されている。町として危険箇所を体系的に把握しているのであれば、これらの要望をどのように位置付けているのか、明確に示す必要がある。全国では重大事故が繰り返されている。千葉県八街市で2021年に発生した事故では、歩道と車道の分離が不十分で児童の列にトラックが突っ込み尊い命が奪われた。この事故を受けて国は通学路の物理的防護措置の強化を強く求めている。

町内でも高齢者の免許返納が進み、徒歩で移動する高齢者も増えると考えられる。通学路は子どもだけでなく、高齢者を含む町民全体の生活道路であり、安全の確保は喫緊の課題である。以上のことから次の点について伺う。

Q 町は危険箇所をどのような手法で把握しているのか。

生徒に注意喚起を行っています。

A 教育次長

小中学校では、毎年4月の集団下校の際に教員が一緒に下校したり、家庭訪問等の機会に危険箇所の把握に努め、児童・

Q 危険箇所の評価基準は何か。

A 都市基盤部長

地区要望と併せて現場確認し、結果を点数化して評価しています。

Q 把握した危険箇所の更新の頻度はどの程度か。

A 都市基盤部長

日常のパトロールを行い、必要に応じて補修作業や工事を実施して危険箇所の解消に努めています。

Q 町民・学校・PTAからの情報をどのように反映しているのか。

A 都市基盤部長

危険箇所は区長を通じて地区要望として申請していたほか、小学校で毎年実施している「交通安全リーダーと語る会」に建設課職員も参加して情報共有しています。

Q 町として危険箇所をどのように優先順位をつけて改善を進めるのか。

A 都市基盤部長

申請いただいた地区要望は学校区ごとにグループ分けし、全ての現場を

複数の担当職員が毎年確認を行い、「危険度」「利便性」「費用対効果」「緊急度」の各項目評価に、申請時に各区で決めた要望優先順位も加味して採点した客観的な点数を元に優先順位を決定しています。

参考として、昨年度建設課に対しては405件の要望をいただき、そのうち206件、1億7400万円余の要望対応工事を実施しました。

Q 全国的な事故の状況や高齢者の歩行者増加を踏まえ通学路の物理的防護措置をどのように強化し、町全体の安全対策に反映させるのか。

A 都市基盤部長

学校や地域からの意見・ご要望を丁寧に見て危険箇所の把握に努め、より交通弱者に優しい道路環境を実現するため、計画的な安全対策を進めてまいります。



渡辺 悦郎

(無会派)

YouTubeにてこの
一般質問の様子が
ご覧いただけます

リンク先：YouTube
小山町議会公式チャンネル
「令和8年 第4回 6月定例会：渡辺悦郎 議員」



期待される返礼品「フジアトランティックサーモン」

Q 「ふるさと納税」で財源確保と地域産業振興を

A 食の創造拠点施設を活用した活性化を図ります

ふるさと納税は、平成20年度に創設された「地方を応援する寄附制度」であり、地域の活力向上や自主財源の確保を目的とした制度である。

現在、町の返礼品はベッドや飲料水、ゴルフ場利用券等が上位を占めているが、地域資源を活用した商品開発が、本町のふるさと納税返礼品の充実や地域経済の活性化につながるものと考えられる。返礼品開発は、単に寄附額を増やすための取組みではなく、「自ら稼ぐ自治体づくり」を実践する重要な施策の一つである。そこで次の点について伺う。

Q 町は、サーモン陸上養殖事業をはじめとする地域資源を活用した新たな返礼品の開発について、どのように考えているのか。

また今後、本町ならではの特色を活かした返礼品の発掘・育成をどのように進めていく考えか。

A 企画総務部長

令和7年度のふるさと納税寄附額は9億9676万円余で、令和5年度比で約190%の増加となりました。

直近では、飲料水に対する寄附件数が引き続き多い中、プロキシマー株

式会社のサーモン製品の寄附件数が伸びている状況です。

今後、本年度整備を進める「食の創造拠点施設」において、陸上養殖サーモンを活用した生食用製品、スモークサーモンや味付け加工品など、魅力的な商品の製造を行います。

サーモン以外にも、地場産品の加工や開発、製造、販売を一体的に行う拠点として活用し、寄附額の増加に取り組んでまいります。

Q 町内の小規模事業者が製造する優れた商品や加工品について、ふるさと納税返礼品への採用や販路拡大に向け、どのような支援や取組みを行っているのか。

A 企画総務部長

返礼品の採用については、株式会社まちづくり公社おやまが事業を担当することにより、新規返礼品の開拓・開発に注力しており、令和6年度の875品目から本年3月末時点で1013品目へ拡充しています。この138品目の増加は、町内の事業者の優れた商品や加工品を新たに掲載したものです。

引き続き、株式会社まちづくり公社おやまと連携し、町内の小規模事業者が製造する優れた商品や加工品について、ふるさと納税返礼品への採用を積極的に進めてまいります。

また、「食の創造拠点施設」を活用し、町内の小規模事業者と連携し、

販路拡大と地域経済の活性化に貢献していきます。

Q ふるさと納税を活用した地域産業振興と、今後の返礼品開発に対する考えについて見解を伺う。

A 町長

ふるさと納税の返礼品開発は、行政、事業者、地域が一体となって取り組むことが、地域産業振興と自主財源の確保につながるものとして認識しており、人口減少や地域経済の縮小という課題に対して、そのような取組みが町の持続可能な運営のための有効な手段であると考えています。

ふるさと納税を活用して、町が元気になるための取組みを進めていきます。

第5回

議員が行く！

まちかどインタビュー



株式会社ディーティーエム
エンジニア
たさか やすひろ
田坂 泰啓さん

福岡県出身。自動車専門学校を卒業後、チームルマンに入社。中島企画移籍後フォーミュラ・ニッポンで高木虎之介選手を担当しチャンピオンタイトルを獲得。現在はチームKCMGでスーパーフォーミュラのチーフエンジニアを務めています。

○小山町に住んだきっかけは。

結婚を機に小山町用沢に引っ越してきました。

○レースの世界を選んだ理由は。

もともと車の構造や機械をいじるのが好きで、メカニックで花形の仕事を考えレース業界を選びました。

○エンジニアとしてのやりがい。

レース前の緊張感は普段の生活では味わえないです。長年携わっていますが今でも胃が痛く、口の中が苦くなる感覚があります。その緊張感の中で勝利を掴んだ瞬間の感覚は、一度味わったらやめられないです。レースをやっている側じゃ



議員研修報告

〔2市1町議員研修会〕

於 御殿場市名鉄菜館

7月21日、小山町、御殿場市、裾野市の議会議員が一堂に会し、2市1町議員研修会が御殿場市内で開催されました。「北駿地区県立高校の再編と本県高等学校教育の未来戦略」をテーマに、静岡県教育委員会高校教育課河内慶太氏を講師に迎え、昨今注目されている県立高校の再編と今後の高等教育の取り組みの講義に続いて活発な質疑が行われました。

2040基本計画グラウンドデザインによると、県下を10のブロックに分け、2市1町は「北駿地区」に分類され現在の4校から2校に再編されます。小山高校は現在そのまま存続され、御殿場・御殿場南・裾野の3校を新たに1学年6クラス単位制の北駿地区新構想高校（仮称）として御殿場南高校の校地に新設し、令和13年4月の開校を目指し現在調整中との説明がありました。人口減少に伴う県下の中学校卒業生数は2040年には約1万人、3割以上減少すると見込まれ、北駿地区では

25〜27%減少が予測されるとの現実が刺されると同時に、今アクションしなければこの難題に対峙できないのだと感じました。学校保護者や生徒からの不安の声や、地域の核となる学校が統廃合されるといいう大変な事態に、御殿場市や裾野市の議員からは活発な質問・意見が出されました。今後、課題解決に向けて学校や行政による対応が活発化されると思われます。小山高校は存続するも、近隣の子どものために未来に係る県立高校の再編について今後の情勢が注目されます。

（記 平野 正紀）



講義を聴く2市1町の議員

請負の状況の公表

小山町議会議員の請負の状況の公表に関する条例に基づき報告のあった議員の令和7年度における小山町に対する請負は、全議員ありませんでした。

9月定例会の開催予定

8月25日〔火〕開会

8月27日〔木〕町長提案説明

8月31日〔月〕決算補足説明

9月2日〔水〕一般質問

9月3日〔木〕一般質問（予備日）

9月4日〔金〕総務建設委員会

9月8日〔火〕文教厚生委員会

9月9日〔水〕決算質疑

9月18日〔金〕閉会

委員長報告・討論・採決等

9月定例会では令和7年度決算質疑などを中心に審議されます。いずれも、開会時間は10時の予定です。決定次第、無線放送等でお知らせします。

編集後記

6月定例会では小山町食の創造拠点施設事業の予算が承認されました。この事業は、まちづくり公社（旧するがやまこども園）を改修し水産加工室、総菜製造室、ジェラート製造室で、主にふるさと納税返礼品を作ります。また、売店・飲食（カフェ）・地域交流スペースを備え町民の方々も気軽に立ち寄ることができるよう改修されます。地域の賑わいにつながることを期待されます。私たち議員は、今暮らしている人も、これから住む人も、生まれてくる人も、住んでよかったと思えるよう町政運営をしつかりチェックし、より良い町づくり活動をしてまいります。

（記 室伏 辰彦）

《編集委員》

委員長 平野 正紀
副委員長 池谷 元
委員 石原 和美
委員 牧野 恵一
委員 小林 千江子
委員 室伏 辰彦

発行責任者／議会議長 鈴木 豊 編集／広報聴聴委員会

〒410-1395 静岡県駿東郡小山町藤曲57-2 電話：0550-76-6141 FAX0550-76-6033 Eメール gikai@fuji-oyama.jp